

第2回草津市総合計画審議会における 主な意見とその対応について

○は審議会での意見・対応
→は審議会後の事務局対応

主な意見	対応
【資料2：施策体系素案について】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の指導力向上等を含めて「学校教育力」の文言とするとのことだが、「等」の内容はなにか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草津市教育振興基本計画に掲げる、学校経営の充実・向上と教育環境の充実を含めた表現とした。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの貧困率はどうなっているか。また、子どもの貧困への対策について、記述を含める必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次回、資料を提供する。 ○ 「子育てに伴う経済的負担の軽減」、「ひとり親家庭等への支援の充実」の項目との関係で記述については検討中である。 → 子どもの貧困対策については、「安心して子育てができる環境づくり」の基本方針の概要の中で整理した。なお、子供の貧困率について、国全体の数値は算出できるが、都道府県別や市区町村別は、現在の統計資料では算出できない。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「健幸都市」というのは、市長の造語か。「幸」は大きい概念であり、一施策の名称としにくいのではないか。 ● 「幸せ」の概念はいろいろあるので、こういう文言を用いるのはいかがなものか。 ● 「健幸都市」について、説明不足かと思うので、資料を提供し説明されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマートウェルネスシティ首長研究会というものがあり、草津市も加盟している。「健幸づくりはまちづくりから」ということで、この「健幸」という文言を用いている。 ○ 市長マニフェストも踏まえて、定着させていきたいと考えている。 → 次回審議会までに、参考資料を提供させていただく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 道路・交通の基本方針で「快適」という表現があるが、誰にとって快適なのか。 ● 下位の施策に、「快適」に対応する内容が含まれていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての方にとって「快適に」、という考えである。 → 他の基本方針や施策とのバランスを考慮し、道路・交通の基本方針において、「快適」という表現は削除する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「青少年の健全育成」のところで、事業内容が少年センターの管理運営のみと説明されたが、18歳からの選挙権など社会的な注目がある中で、あえて省かなくてもよいのではないか。 ● 基本方針名と施策名がほぼ一緒なので、もう少し工夫が必要では。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 検討させていただきたい。 → 「青少年の健全育成」の施策については、教育振興基本計画との整合を図る上で、新たに設定する「子どもの生きる力を育む教育の推進」の基本方針に位置付ける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「コンパクトシティ」は、まちを小さくしようとする概念ではない。公共施設等を中心部に集めるという表現では反発を招く。 ● 「住宅・住生活」のところで、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを施策レベルで入れておくのはどうかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再度検討させていただきたい。 → コンパクトシティ・プラス・ネットワークの施策は削除し、ロードマップ事業として掲載する。

主な意見	対応
● 空き家対策は、行政が何かできるというものではないのではないか。まちづくり会社や中心市街地活性化の民間の取組の中で対応すべきではないか。	○ すでに空き家バンクを実施するなど、庁内で対策を検討中である。
● 子どもの貧困だけでなく、高齢期の貧困への対策についても、その趣旨を含められたい。	○ 担当課に確認し検討する。 → 生活困窮者については、「生活安心」の分野にて記載しており、高齢者の貧困対策についても「長寿・生きがい」の分野にも該当するが、あえて貧困対策としての記述は行わない。
● 「まちづくり情報基盤の整備」を削除して、行政情報等の「等」にまちづくり情報を含むとするのは適切でない。協働の意識はまだまだ低い。	○ 意見を踏まえて検討する。 → 「地域のまちづくり情報の提供」として施策を残すこととする。
● 「多様な交流活動の展開」で「大学等との協働による」となっているが、「産学公民」という文言とし、「等」の内容がわかるようにしてはどうか。	○ 施策概要の文章のなかで整理したい。 → 施策名を「産学公民」という表現に変更する。
● 生涯学習についての記述を再検討いただきたい。新しい学びが、課題に対応していく力となる。内容や機会の充実と併せて、学んだ人を活かす場の充実などを含められたい。	○ 意見を踏まえて検討する。 → 草津市教育振興基本計画の体系と整合を図るため、基本方針「生涯学習の振興」と「市民スポーツの推進」を統合し、関連する施策についても整理する。
● 「人権文化」という言葉はあるのか。	○ 持ち帰り確認する。 → 「人権教育のための国連 10 年草津市行動計画」を踏まえた「人権擁護に関する基本方針（改訂版）」において、「人権文化の創造は、市民の豊かな感性や発想、そして実行力なくしては成し遂げることができないもの」と表現している。
● 「結婚から子育てまで」の表現では、結婚をした人の子どもの支援とも読めるので改められたい。	○ 妊娠から子育てのほうが適切でもあるので、訂正していきたい。 → ライフスタイルに係る内容ではなく、「切れ目のない子育て支援」という表現で整理する。
● 「小地域ごとの商業基盤」から「小地域ごと」を削除した理由は何か。以前はなぜ標記されていたのか。	○ 持ち帰り確認する。 → 「小地域ごと」は、「中心市街地の魅力向上」の施策と対の、例えば、生活に身近な買物環境などを想定した表現としていた。 → 中心市街地や商店街の活性化に関する取組を明確にするため、施策名を「地域商業の活性化」に変更する。

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 「安全・安心で快適な道路空間の構築」の施策において、防災空間としての位置付けを含められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施策の概要文章での記載を検討したい。 → 道路の役割のひとつとして防災空間という概念はあるが、「心地よさが感じられるまちへ」の基本方向に位置付けている施策であるため、概要も含めて整備や維持の記述としている。
<ul style="list-style-type: none"> ● 創業支援と雇用の創出に係る施策が、工業の項目となっているので、位置づけを検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見を踏まえて位置づけを検討したい。 → 創業支援と雇用の創出については、ロードマップ事業に掲載することとし、施策名については「新産業の創出」に戻す。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域特性を生かしたまちづくり」は、抽象度の高い表現でわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> → これまで重点的に進めてきた“まちなか”の整備の成果を市全体へと波及させるため、リーディング・プロジェクトとして「まちなかを活かした魅力の向上」を設定する。ここでは、その波及効果を支援する施策や事業を想定している。 → 現時点では具体的な事業はないが、よりわかりやすい表現とするため、「地域特性を生かしたまちづくり」から「地域特性を活かした郊外部の整備」に施策名を改め、「住まいと住生活の魅力の向上」の基本方針の施策として位置付ける。 → 地域特性を生かしたまちづくりの主体は、各学区のまちづくり協議会であることから、リーディング・プロジェクトとして「コミュニティ活動の推進」を設定し、地域課題の解決に向けた取組を促進する。
<ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサルデザインについては、「バリア」という表現のほうが、市民はイメージしやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> → 意見を踏まえ、第2期基本計画と同様、施策名を変えず、「まちのバリアフリー化の促進」とする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育所待機児童はゼロであるが、保留児童があると聞く。どのように把握され対応されているのか。 ● 小規模保育の利用が2歳児までである。やっと利用できていても、3歳でまた保育所探しを大変。また、いったん職場復帰してから再度の育休取得は難しい。 ● 期中評価のなかで「就学前教育・保育の充実」の目標達成度は85.3%の評価。市民意識調査の結果で見直し優先度Aという評価について、どうお考えか。 ● 幼保一元化が進むなかで、子どもの教育についてのお考えはいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望する保育所を利用したいという保留児童は20人程度である。また、年度末に向けて待機が徐々に増えるということもある。年度末まで待機がゼロとなるよう計画している。 ○ 小規模保育には、連携保育所をつくって、2歳から3歳への移行がスムーズにいくよう制度構築をしているところである。 ○ 幼稚園と保育所で同じ教育が受けられるものを求めて、また、今の2年保育、3年保育を含めて、こども園化を進めている。 ○ こども園、保育所、幼稚園のどこに行っても同等の教育が受けられる統一したカリキュラムを策定して、今年度から実施する。

主な意見	対応
【資料3：リーディング・プロジェクトについて】	
<p>● 「周辺部も含めた活性化」という表現があるが、中心市街地に該当しない草津川跡地整備ゾーンを「周辺部」として考えているのか。</p>	<p>○ 南草津駅周辺の地域特性も加味する考えで「周辺部」という文言を用いたが、特に草津川跡地整備区間5を中心市街地と絡めながら活性化していく考えである。</p> <p>→ 基本構想に示す「まちの構造」を踏まえた都市づくりを進めており、草津駅、南草津駅周辺の「にぎわい拠点」を核とした「まちなかゾーン」の整備が、草津市全体の都市活力をけん引するという考え方が基本である。「周辺部」とは、「にぎわい拠点」の周辺部、という趣旨であったが、誤解を生む表現であったため、「郊外部」に改める。</p>
<p>● リーディング・プロジェクトに「市街地だけでなく」とあるのは、「中心市街地だけでなく」の誤りなので、修正されたい。</p>	<p>○ 意見の通りであり、改める。</p>
<p>● 第2期のリーディング・プロジェクトの2つを統合するという点についての丁寧な説明と、リーディング・プロジェクトで何を推進しようとするのか、わかりやすく書いていただきたい。</p>	<p>→ まちなかゾーンには、中心市街地と草津川跡地の一部が含まれていることから、施策を講じる地域が重なるだけでなく、2つのリーディング・プロジェクトをまちなかゾーンの整備としてまとめることで、市全体の都市活力をけん引する方向性をわかりやすく示したい。</p> <p>→ まちなかゾーンを整備の成果をまちなかゾーン以外の地域の特性を活かしたまちづくりに波及させたい。具体の事業は今後検討するので、表現は「まちなかを活かした魅力の向上」とする。</p>
<p>● 「まちづくりの基本方向」の順序に違和感がある。</p>	<p>→ 資料に誤りがあったため、修正している。</p>

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ● リーディング1と2が継続であり、リーディング4が「新規」だが、リーディング3には「強化・拡充」と付されている。リーディングとするなら「新規」の扱いになるべき。リーディングとしての位置づけの考え方と併せて、整理されたい。 ● 「健幸都市づくりの推進」のみ、施策名として出ている。他のリーディングは分野ないし基本方針レベルで書かれている。「幸」の言葉の持つ広がりも大きいので、どう整理するのか、きちんと説明されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> → 意見のとおり、リーディング3については、第2期には存在しなかった方針なので、「強化・充実」でなく、「新規」となる。ただし、資料には新規等の表現は記さない。 → 健幸都市づくりは分野横断的な取組になってくるため、庁内で議論したうえで整理したい。

◆審議会後の意見

意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・草津市の障害者が学校を卒業した後の社会的受け皿（就労等の場）は整備されているのか。 ・整備について2期計画でどこかに記載しているか。 ・社会的受け皿としては、どのような例があるのか（農業あるいは授産施設や福祉工場といった福祉の場）。 	<ul style="list-style-type: none"> → 湖南福祉圏域内の関係機関が集まり、湖南地域障害児・者サービス調整会議等を通し、市が新たな事業所の整備や増築等を促進している。 → 施策「障害のある人の暮らしを支えるサービス基盤の充実」の概要にて就労支援についての記載をしている。 → 企業等で働くことが困難な人に対して、就労の機会等を通じ、生産活動に係る知識および能力の向上のための訓練を行う就労継続支援事業所など。